

選外佳作の二

でんくく虫のお話

山本ゆき子

今はでんくく虫に丈夫なお家がお脊にありますが、昔々ズット昔、でんくく虫にお家のなかつた時がありました。

其の頃、廣くく野原の草の大きな葉っぱの上に、でんくく虫のお母さんミカはいゝ子供のでんくく虫ミが棲んで居りました。子供のでんくく虫は、大變元氣の良い、お母さんの云ひなさいます事を良くきく良いでんくく虫でございました。

今日もお母さんの側で、子供のでんくく虫が蜂さんのブンくくミ唱ふお唱歌をきゝ乍ら靜かに遊んで居りますミ、雨がポツンくくミ落ちてきました。子供のでんくく虫は、オヤ雨が落ちてきたミ頭を抑へお臀を抑へましたが、やつぱりかゝります。でんくく虫は悲しさうに

「お母さんくく又着物が濡れてしまひますミう致しませう」ミ云ひました。お母さんは

「早く葉のかげに隠れなさい」「云ひなさいましたので、子供のでんく蟲はすぐ葉のかげに隠れ雨の止むのを待つてゐました。

子供のでんく蟲は

「お母さんく蛙さんにも蜂さんにもお家がありますのに、何故僕等にお家がないのでせうね、僕等にもお家が欲しいね」

「お母さんに云ひました。お母さんは

「さうね、いつもお母さんも思つてゐるのだけれ共神様がくださらなかつたから仕方がないのですよ」

「お母さん、神様つて何處にゐらつしやいますの？」「云ひました。お母さんは

「神様つてね、高いく天にいらつしやるのですよ」

「お母さま其の高いく天へさうして行かれるのでせうね」

「高いく天へはね、葉のお窓からのぞいてごらんなさいホーラ向ふに摺鉢の様なお山が見えるでせう、其のお山の一番高い木がありませう、雲にまぎれてゐる様です、其の木から行かれる云ひますけれどね、遠い高いものですから誰も行つたものが無いのです」「云ひなさいました。でんく蟲は、

「お母さん、天へ行つて神様に頼んできてもいゝでせうね お母さん」云ひました。お母さんは

「あのねお前も知つてゐる通り、私達は足が遅いでせう それに非常に遠いからこゝても行かれませんか お止めなさい」……

「でも僕さんな目に遇つてゐても、僕達にお家をおかします様つてお頼みしてきたいのです 行つてもいゝでせうねお母さん」云ひました。漸く立つてお母さんは

「それでは行つて神様にお頼みしてゐらつしやい。けれ共お道はつらいのですよ、そうして、みんなお友達に遇つても道草せず自分のお足で行つてくるのですよ」「ハイ」僕も日本にゐるでん〜蟲だお母さんのおつしやつたおいひつけを守つて、さうでもお頼みしてこねばならないと元氣を出して

「お母さん行つてきます」云つて、大きな葉の上から下りて、彼の高い山を目あてにノソリ〜と一心に歩き出しました。少し行きましたら、足が疲れましたので葉かげに休んで居りました。そこへ蟻螂さんが

「でん〜蟲さん暫くでしたねさ〜いらつしやいます」「云ひました。でん〜蟲は

「彼の高い〜お山へ行きます」「云ひました。する〜蟻螂さんが



た。ア、困つた、こんな大きな川は渡られないし、——を考へてみました。そこへ龜さんがヒツコリ川の中より顔を出しました。

「でんく、蟲さん今日は、何を考へてゐなさいます？」と云ひました。「私は此の川を渡りたいのだけれ共、橋が無いから困つてゐると云ひました。」

「其れでは私の甲羅におのりなさい連れて行つて上げせまう。」と云ひました。

「有難う、けれ共お母さんが歩きなさいとおつしやいましたから歩いて行き度いのでございませが何卒橋のある所を教へて下さい。」と頼みました。龜さんは教へて下さいましたので龜さんにお禮を申して龜さんと別れて橋を渡り、だんくお山をさして登りました。辛い事、々々、何度も、もう止めてお母さんの傍へ歸らうかと思ひましたが、元氣を出して登りました。山の峯につき、木にのぼりさうく天へ上りました。でんく、蟲は、天へ上られましたので、大へん喜びました。そうして遙か向ふにいられます神様の所へ参りました。でんく、蟲は神様に叮嚀にお禮を致しました。「神様御ねがひがございませ何卒僕達にもお家を戴けます様に。」とお願いしました。

するに神様は「此の様な遠い所へよく來ましたね、……そうしてお友達がありましたか？」と優しくおつしやいました。

「お友達はありません。僕獨りで一生けんめいに來ました」を申しました。神様は、大そうおほめ下さいました。

「それでは、良いお家を上げやう」をおつしやいまして、でん／＼蟲に脊中を神様の方へ出せを仰せられましたので、おつしやいました通り出しますを、神様は「丸」「丸」を人さし指でぐる／＼形を脊におかきになりました。する／＼丸いお家がでん／＼蟲の脊に出來ました。

そうして神様は「でん／＼蟲の子供よ、あなたはお母さんの申された通りを守つて來ましたから、ごんなに疲れたらう、今すぐお家をつけたまゝお母さんの許へかへして上げませう。目をつむりなさい」をおつしやいましたので、お目目をつむりますを、體共にスー／＼なつた様に思ひました。する／＼お母さんの

「おかへんなさい」を云ふ聲がきこえましたので、吃驚して目を明けますを、廣い／＼野原の、元の葉の上です。お母さんはニコ／＼して「良いお家を戴いてきましたね」をおつしやいましたので、嬉しくて思はず體を伸しますを、良い丈夫なお家から體がスー／＼出ました。そうして歩きます時にもいつも此の良いお家が來ました。

でん／＼蟲さんもお母さんもごんなに嬉しかつたここせう。

神様が高い／＼天より落しなさいしてもこはれない様な丈夫なお家がこれである様になりました。